



まるまる Mallmallを中心に開催されているまちなかイルミネーションで、ワンパーク内イルミネーションをプロデュース。カラフルな光の中に、ステレオテニスさんのレトロでポップな世界感を楽しむことができます。

多くのイベントが開催される市立図書館では、「好き」を仕事しながら働く楽しさを伝える「おしえて先輩！」を対談形式で開催しています。さまざまな分野で活躍する人をゲストに迎えて、その人の考え方や生き方などを紹介する同イベント。この企画を担当しているのが、本市出身のグラフィックデザイナー「ステレオテニス」さんです。

ステレオテニスさんは、東京を拠点に、広告デザインなどを手掛けるグラフィックアーティストとして、また、空間装飾のアーティストディレクターとして活躍しています。

幼少の頃から絵を描くことが好きだったステレオテニスさんは、京都の美術大学へ進学。デザインの勉強を重ね、独自の感性を磨きながら、自主制作作品を発表して

人の風景

Smiling faces of miyakonojo



①



②



③

- ①雑誌「美術手帖」の表紙デザイン
- ②地元眼鏡店と共同運営する眼鏡オンラインショップのメインビジュアル
- ③東京ガールズコレクションのメインビジュアル

きました。80年代の文化に影響を受け、この頃から、その文化を象徴すると考えた「ステレオ」と「テニス」を組み合わせた「ステレオテニス」として活動しています。

「大好きな80年代の文化は、エネルギーが満ちあふれている。今でも、その頃の雑誌や映画を見て学ぶところが多い」と、笑顔を見せるステレオテニスさん。

大学卒業後、活動の場を東京に移し、感性豊かな作品が認められ、次第に仕事の依頼が増加。有名アーティストのグッズデザインを担当したり、東京デイズニールゾート関連施設の内装デザインを手掛けたりしました。その作品の多くは、カラフルな色使いで、「懐かしい」と「新しい」を融合したポップなデザインに、多くの若者の支持を集めています。

「作品が認められた時の喜びは、言葉にできない。その喜びが、新しい作品を生み出す源になる」と、力を込めるステレオテニスさんの次なるチャレンジは、地元「都城」から新しい視点で情報を発信すること。市内でも活動の場を広げていて、閉業した実家のすし店をプロデュースし、往年の店の味を生かした「だし巻きたまごサンド」を開発したり、地元の眼鏡店に眠っていた年代物の眼鏡を、どこか懐かしい眼鏡として再び販売したりするなど、「都城」の「楽しい」を形にしています。また、まちなかイルミネーションに携わるなど、さまざまな企画にも参加。

今後さらに、本市での活動の場と人とのつながりを広げ、尽きない発想と独自の感性で、新たな「楽しい」を発信していきます。

都城の「楽しい」を、どんどん発信!!

グラフィックアーティスト/
アートディレクター

ステレオテニス さん

(東京都在住)

80年代のモダンデザインを主体に、
独自の視点で「新しい」を表現して
いる。

まちなかイルミネーション
(ワンパーク内)